

平成27年度 支援プロジェクト継続審査対象団体一覧

<継続>					
No.	プロジェクト名	実施団体	プロジェクトリーダー	プロジェクトの概要	関係課
1	ブランクではなくギャップイヤー！～ライフイベントによる長期休暇がキャリア中断にならない文京区をつくる～	NPO法人ArrowArrow	堀江 由香里	これまで、産休、育休、介護休業などライフイベントに伴う長期休暇や時短勤務は、制度的に認められていても、現場では「第一線で働くのが難しい」と扱われたり、本人も「周りに迷惑をかけている」と考えてしまいがちであった。それが休暇のとりづらさ、出産での退職にもつながっている。本プロジェクトでは、働く人の出産、育児、介護などが、働らく人にも会社にも大切な時間とできる中小企業を文京区から日本に広げることを目指して、企業（組織）と従業員（個人）が互いにに何ができるか、を伝え・共に考える「コーディネーター」を育成する。	経済課 男女協働・子ども家庭支援センター担当課
2	まちのキャッチフレーズ、創って使い倒してずっとつながるプロジェクト	文京かるた隊	都丸 光子	新住民が地元を知らず愛着やつながりがない等の課題解決に向け ・文京区の著名な事項・地理・歴史・人物などについての「町の100キャッチフレーズ」を複数イベントとコンテスト方式で創りあげる。 ・コミュニケーションツールとして紙カードゲーム(b-caruta)・Webサイト・冊子作成する。 ・ワークショップ、カードゲーム大会、町歩きなど家でも町でも使う機会を増やし、共通言語として使い倒す(町会イベント、商店会、学童保育、高齢者施設等)。 ・地域の人とのつながりとともに楽しい思い出として記憶され、キャッチフレーズが浸透、未来へと世代や時間軸をこえて、地元意識を形成する。	区民課 アカデミー推進課
3	ぶんきょう・いんぐれす	ぶんきょう・いんぐれす	郷津 桂一	史跡が多く知的レベルの高い人たちが集まる文京区は、Googleマップを利用したGPSゲーム「イングレス」を楽しむ人たちの絶好の遊び場となっており、街を歩くことによって人と人とが繋がりはじめています。それを活かして、若者やネット住民が地域と接点を広げることによる地域問題解決を、「観光・集客」「健康促進」「世代間交流」に焦点を絞って活動する。ゲームによって街を歩くこととイベントを実施することでプレイヤーと地元住民と交流し、地域特有の課題を発見し、解決していく。	経済課 アカデミー推進課
4	「ようこそサカミチin文京2023」(減災連携ステイクホルダーミーティングのモデル化とサカミチ観光開発事業)	本郷いきぬき工房	瀬川 智子	首都直下地震がオリンピック・パラリンピック開催中に発生しても全員が無事に助かることを目指し、防災・減災のための対話の機会の創出とサカミチ観光開発事業の2本柱としたサービスのパッケージ化を実施する。具体的には、首都直下地震の発災直後72時間、公助が不足するなかで、近隣の企業・大学・商店・町会・住民等、「新たな公共の担い手」達が近隣エリアで救助し合えるような連携体制をつくるため、産官学民による「減災連携ステイクホルダーミーティング」の型を作っていく。また、平時において、楽しく前向きに救助の担い手を養成することを目的に、文京区の観光資源でもある情緒豊かなサカミチでの「観光×防災×心のバリアフリー」を事業化することを通じ、世界でいちばん心豊かなサカミチが文京区に生まれ、やがて世界に展開できるモデルづくりを目指す。	防災課 アカデミー推進課

(注) 掲載は、プレゼンテーション順。